

CONTENTS

● 梯顧問グラミー賞受賞 / 第16回NAMMビジネスツアー報告	1~5
● MIDI 検定試験実施結果報告	6
● 著作権・ソフト委員会報告	7
● AMEI 会員名簿・第2回通常総会と懇親会開催のお知らせ	8

梯顧問グラミー賞受賞報告・ 第16回NAMMビジネスツアー AMEI/MMA会議報告



今年(2013年)は1月24日から1月27日の開催期間で、2013NAMM SHOW が米カリフォルニア州アナハイム・コンベンションセンターで開催されました。NAMMの発表では、今回の入場登録者数は、93,908人と前年を上回ることはなかったものの、総出展者数は約1500社(新規出展社289社)と去年の1,441社(新規出展社236社)を上回り、引き続き本格的な回復の兆しを感じられるショーとなりました。

特に今年(2013年)は、いわゆるガレージメーカーの展示や、アナログシンセ系の展示が話題を呼び、各メーカーの特徴を全面に押し出した製品が目立ちました。また、すっかり定着したiPadをコントローラーやインターフェイスとしたソフト・ハード楽器も、iPad内臓型の商品は姿を消したものの、いろいろなタイプの専用スタンドにセットされたiPadが林立している光景が多く見られました。また、今年からコンベンションセンター正面に噴水と大型ステージが設けられ、学生バンドコンテストや有名ミュージシャンによる演奏等が連日開催されました。MIDI規格委員会主催の第16回NAMMビジネスツアーもNAMMショー及びMMA総会の日程に合わせ、1月23日出発～1月29日帰国のスケジュールで、11名の参加協力を得て実施する事が出来ました。そして2月には第55回グラミー賞授賞式がカリフォルニア州ロサンゼルスにて開催され、誕生から30年を迎えるMIDIを、梯郁太郎 & Dave Smith 両氏がメーカーを問わない共通規格として制定に尽力され、その後の音楽界に多大なる貢献をしたことが評価されグラミー「テクニカル賞」を受賞されました。

梯顧問がグラミー賞を受賞

本年2月9日ロサンゼルスにて、米音楽界最高の榮譽であるグラミー賞のうち、音楽産業への貢献をたたえる各賞の授賞式が開催され、ローランドの創業者で当協会の顧問の梯郁太郎氏が「テクニカル賞」を受賞しました。これはシーケンシャルサーキット社の創業者のデブ・スミス氏との連名で受賞したもので、MIDIの制定に尽力し、MIDIがその後の音楽産業の発展に多大な功績があったと認められたものです。

これは、MIDIを規格・管理する当協会にとっても大変喜ばしい出来事であり、現在取り組んでいるMIDI規格の国際標準化や中国におけるMIDI商標の問題にも大きく影響する出来事と考えています。去る3月22日に機会を頂き飛河MIDI規格委員長と共にお話を伺ってまいりましたので紹介をさせていただきます。

「受賞の感想をお聞かせください。」

アメリカという国は、記念行事はQuarter(4分の1)で捉える国柄で、MIDI制定25年の時にノミネートの噂があったのは知っていたが、そのまま消えてしまった。その後何もなかったのに、30年を迎える今回受賞したことは驚きでもあり心から嬉しいと感じている。

「応用分野が広がった理由は？」

音楽そのものは時間の中で消費されてしまうものであり、アナログであるが、広く普及したのは、平均律及び楽譜(記譜法)の発明により音楽そのものを多くの人が共通認識できるようになったためだ。

MIDI誕生当時、レコードからCDへというようなデジタル化の流れの中で「音楽」のデジタル記述方式は用意されていなかった。デジタルの世界で「MIDI」というフォーマットで音楽を残す、いいかえると「音楽そのものをデジタルで記述する」というコンセプトが優れていたのだと思う。

それに加え、この規格を無償でオープンにしたことによるビジネスチャンスの拡大が大きい。私の果たした役割は規格の無償オープン化だ。

当初は、規格の統一化についても数年間なかなか進まなかった。しかし、日本のメーカーのMIDIを採用した商品がヒットすることにより一気に進むようになった。

名称も当初考えていたのはUMI(Universal Musical Interface)日本語での拡がるという語感(海)を意識したものであったが、英語での響きを考慮しデブ・スミス氏の提案によりDigitalという言葉を含めてMIDI(Musical Instrument Digital Interface)と決定した。

規格が、「音楽そのものの記述」で「無償且つオープン」であることにより、電子楽器及び関連機器にとどまらず音楽ビジネスに関わる人達の事業チャンスが拡大することとなった。その結果、「業務用通信カラオケ」や携帯電話における「着信メロディー」、「照明での利用」といったMIDIの応用による事業が発展した。

「楽譜」は、それ自体が単純化され、まとまっているのと同様に「MIDI」は必要な要素以外はそぎ落としてシンプルにしており、「楽譜」にとっても近い状態でデジタル伝送にするものだ。

共通の規格を制定する際に、何が重要な要素なのか、どの段階でインターフェイスとして区切るか?ここが、悩ましくもあり、もっとも重要なポイントだ。MIDIは、若干の改定はあったものの「MIDI規格」そのものは変化していないことが重要であった。オープンにしたからには、後戻りできないわけで、MIDIはMIDIとして存続し、他の要素が入るのであればそれは違う規格にすればいいことだ。

「MIDIが音楽に与えた影響は？」

MIDIというフォーマットはコンピュータとの相性がとても



いい。それが、コンピュータの発展と共に電子音楽の発展に寄与した。

最初は、シンセサイザーとシーケンサー、シンセサイザー同士で繋いでいたものがコンピュータとの相性の良さが電子音楽の進化・発展に貢献をした。富田勲氏がシンセサイザー音楽を始めた頃はアナログでやっておられた。これは接続が非常に難しかったが、MIDIの登場により、この煩わしさから解放され発展性のあるシステムが出来上がった。MIDIと言うフォーマットがコンピュータへのドアを開いたといえる。

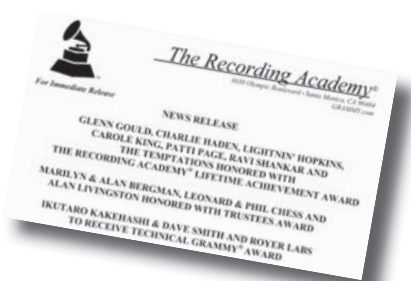
今はネットワークの時代に入っているが、USBや伝送系(インターネットなど)を用い、MIDIのコンセプトを崩さずに、従来のコネクタの煩わしさから解放したのはいい方向であり、今後も音楽制作にとりMIDIの重要な役割は変わらない。MIDIを一言、日本語でいうと「縁の下の力持ち」ということになる。表にでてきてワーワーと言うものではない。目には見えないが、いろいろなところで役にたっている。如何に、応用を拡げていくかということだ。

「これからのMIDIの役割はどのように進化？」

繰り返しになるが、MIDIは、コンピュータにおける「音楽の共通言語」だ。楽譜がその発明から数世紀に亘り(今現在も)その役割を果たしているのと同様に、今後もその役割は変わらない。ただ、「縁の下の力持ち」であるので、どれだけ多くの人に、どのように使われていくかにかかってくる。若い人達に望むことは、音楽を身につけるには、しっかりと練習をしましょうということだ。音楽をマスターするということは言語を学ぶのと似ているところがある。MIDIについて言えば、MIDIは音楽ジャンルを選ばずに表現できるフォーマットなので、ちゃんと音楽を目指す人にはその理屈を身につけて欲しい。理屈が分かっていないと使えないので、使えるような勉強が必要だ。そうした意味において「MIDI検定」については更に拡大を目指して欲しい。

「AMEI会員に一言お願いいたします。」

既にRP/CA化されているMIDI Visual Controlによる映像コントロールの使い方による新たな表現の為の機器開発であるとか、コンテンツの世界でいえばゲーム等における音楽/映像をリンクした開発であるとかMIDIの応用分野でのビジネスチャンスは広がっていると思う。皆さんで知恵を絞り新たなビジネスが創出されることを期待する。



NAMM ビジネスツアー

今年のNAMM ビジネスツアーは、11名の参加メンバーを得て開催することができました。各メンバーとも多忙な中の参加の為、出発・帰国日程とも全員が一緒にという訳にはいきませんでした。成田空港にて参加メンバーには各自搭乗手続きを済ませていただき、成田空港第1ターミナル南ウイングにあるレストランアピオンにて全体日程及び各自の行動予定について確認・情報交換を行い、恒例の記念撮影の後、シンガポール航空SQ012便にて1月23日PM6時50分夕日の中、成田空港を一路ロサンゼルスへ向け出発しました。

定刻にロサンゼルス空港に到着、今回は通関もそれほどの混雑も無かったのですが、シンガポール航空のロサンゼルス便はもともと到着時刻が11:50と遅いので、チャーターしたバスに乗り込んだのは昼過ぎ、昼食を兼ねてファーマーズ・マーケットへ。ここはアナハイムへ行く途中立ち寄るのには都合の良い場所で、八百屋さん、フードコート、おみやげ屋さんなど165店以上がはいってるマーケットで、昼食に迷った時はここへ行く事にしています。食事後30分ほど散策して、これまた恒例となったハリウッドサインが(小さく)見えるコダックシアターの中庭へ。と思ったらドルビー・シアターに改名されていました。2012年コダックは破産法の適用を申請、ドルビー・ラボラトリーズが命名権を獲得し今後20年間はドルビー・シアターでアカデミー賞授賞式を行うそうです。今年もチャイニーズシアターやハードロックカフェの前では、トランスフォーマーやダースベイダーが手持ち無沙汰な様子で観光客と写真におさまっていました。その後は市場調査の定番ロサンゼルスギターセンターへ立ち寄り、夕方6時過ぎにアナハイムディズニーランドホテルへ到着しました。



成田空港にて 2013NAMM ツアー結団式



AMEI NAMM ツアーに参加して〈1〉

ヤマハ株式会社 研究開発センター 森 隆志

今回、初めてのNAMM Show 視察、初めての北米渡航ということもあり、当日まで期待と不安が入り交じった海外出張でしたが、AMEI ツアーに参加させて頂いたことで非常に安心して有意義な出張期間を過ごすことができました。

初日は、ロサンゼルス周辺の観光と併せて、ギターセンターにも立ち寄って頂き、日本とアメリカの楽器店の違いを実感しました。展示商品のバランスなども違いましたが、例えばギターアンプは日本の楽器店では、サイズやユースケース別に置かれているケースが多いのですが、ここではブランド毎にラインナップ展示されているなど、販売手法の違いも見取れました。

二日目からいよいよNAMM Showの視察です。前日入りして、時差も含めて慣れる時間が取れるので良い日程でした。話に聞いていた通りの巨大なイベントで、楽器系によらず近年あまり元気が無いことが多い国内の展示会とのギャップを感じます。また、関係者によるトレードショーとは言え、製品紹介やビジネスだけでなく、皆で音楽を楽しもうとする空気が伝わって来ました。

個々のブースを見て回って最初に感じたのは、周辺機器市場の盛り上がりです。ピアノやギターなど本来の楽

器以上に、オーディオI/Fやアンプ、スピーカー、ミキサー、ソフトウェアなど、様々なユースケースに応じた周辺機器の新製品が目を見ました。そこには通信技術や信号処理などの新しいデジタル技術がつき込まれています。既に技術的に枯れてきている面がある本来の楽器群に比べて、価格競争を含めて各メーカーの意欲的な取り組みが見えたように思います。

一方、それらの様々な技術が求める先の“音”は、やはりアコースティックやアナログ感というところにあることにも注目できます。デジタル化で利便性を追求しつつ、音の魅力は過去のアナログの遺産を継承する、というのが現在の楽器業界のトレンドの1つのように思います。“良い音”の定義は、ある種の音楽文化や歴史によって作られてきた面がありますが、これからの音楽文化は歴史の中で何を作り出せるのか、興味があるところです。

NAMM Showは規模も大きく、初めて行くと戸惑うことも多くありますが、今回AMEI ツアーで経験豊富な方に引率して頂くことでほとんど何も心配すること無く視察に集中することができました。また航空機、ホテル共に非常に快適で、ツアーの参加者の方々と会話する機会もありますので、NAMM Showが初めてではない方にとっても良いツアーだと思います。

参加させて頂きありがとうございました。

AMEI/MMA 会議報告

MIDI 規格委員会副委員長
河口 幸裕

◆ MIDI 国際標準化に関する AMEI/MMA ミーティング (2013-1/24/25)

1月24日:MIDI規格の国際標準化について、IECとの契約文書作成の進捗状況について確認を行った。MMAと契約文書作成を進めている弁護士についてはボストンのGesmer Updegrave LLPと情報交換を行ってきたが、契約文面の具体的作成に関しては新たにLAのSeaton Law Groupを使う。その弁護士と当24日に打合せ予定との事で、翌25日に打合せ結果を確認する事とした。

1月25日:MMA Tom White 会長と面会し、IEC 中央事務局と MMA 間の契約作業の内、契約文面作成部分を担当する弁護士との交渉状況を確認し、近日中に最終契約書の完成が見込めるとの見解を得た。

◆ AMEI/MMA マネージメントミーティング(2013-1/26)

Technical Topics: HD Protocol/IEEE AVB/MIDI Electrical Spec/IEC-MIDI 国際標準化/OMAC (Open-Music-App-Collaboration) /Home Control の MIDI 規格化検討 /Web MIDI API

Business Issues: 中国における MIDI 商標と GM 商標

についての対応 /MIDI 規格生誕 30 周年の記念施策・イベントの情報共有等について、TomWhite 会長及び MMA Executive Board/Technical Board Members との打合せを行った。

◆ MMA 総会へのオブザーバー参加 (2013-1/27)

MMA 年次総会へ参加、TomWhite 会長の報告については前日の AMEI/MMA マネージメントミーティングの内容に沿うものであり、その他 MMA の各 Board メンバーの選出や午後には MMA 会員以外の招待者に向けての HD protocol のデモが行われ、HD protocol の機器間での通信が紹介された。また、W3C における Web MIDI API の Editor の一人である Google の Chris Wilson 氏も総会に出席しており、MIDI 関連業界の現状と Web MIDI API の重要性を理解してもらった場ともなった。

◆ MMA HDWG Meeting 参加 (2013-1/28)

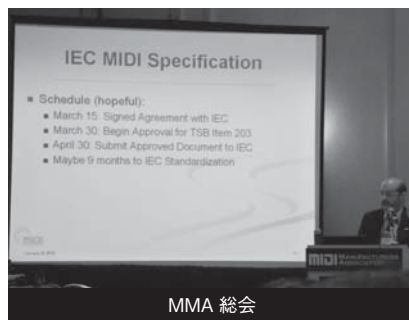
MMA で進めている HD プロトコルについて、前日の総会後に MMA 会員外に対して行われたデモンストレーションについての総括、仕様の懸案事項に関する討議を



MIDI 国際標準化に関する AMEI/MMA ミーティング



AMEI/MMA マネージメントミーティング



MMA 総会

AMEI NAMM ツアーに参加して (2)

ヤマハ株式会社 研究開発センター 篠田 亮

今回 AMEI の NAMM ビジネスツアーに参加させて頂き、入社 10 年目で初めて NAMM Show を視察する事が出来ました。

アメリカ到着初日は、ハリウッド市内を回り、ギターセンターを視察させて頂きました。アメリカで楽器店に入る事自体が初めてでしたので、日本の楽器店とは比べものにならない規模の大きさに驚きました。店の中は多くの客で賑わっており、試奏している客も多く、店員と談笑する客も多くとても賑やかで、客の振る舞いについても日本とはまた違った雰囲気なのを知る事が出来ました。

二日目 (NAMM 初日) からは、NAMM Show の視察でした。会社の同僚から規模の大きさや雰囲気を聞いてはいたものの、実際に会場に行くとその規模の大きさに驚かされました。NAMM Show 公式の iPhone&Android アプリの存在を事前に聞かされていたので、使える状態にして持って行きましたが、特定の分野やメーカーを探すのにとっても便利で役に立ちました。このようなアプリが無いと必要な情報にたどり着けない程の規模の大きさでした。

日本の楽器フェア等で見える事ができるメーカーの数より遥かに多いので、普段知っている有名メーカーでも充実した商品のラインナップ、最新情報を得ることも出来、また、これまで全く知らなかった情報も得る事が出来ました。日本だとある程度選別、淘汰されて残った情報だけが入ってくると思うのですが、NAMM では、明らかに

一般的、主流とは外れたニッチな所を狙った分野、ソリューション、商品等もあり、「そんな発想があったか!？」という様な物も色々見られ、自分の視野が少し広がった気がしました。ニッチな商品を作っている会社でもスタッフがとても自信をもって商品をアピールしていた所も日本と違って印象的でした。個人的にも楽器演奏を趣味としており、会場の至る所でのデモンストレーションやライブ等で世界的なプレイヤーの演奏を間近で見る機会にも多々恵まれ、感激しました。

AMEI ツアープログラムでは無いですが、アナハイム近辺のトイザラス、COSTCO、BestBuy、The Home Depot 等大型量販店も視察する機会もあり、どの量販店も規模の大きさに驚かされ、アメリカ人の買い物の量の多さ等文化の違いにも大変驚きました。

久々の海外出張でしたが、この NAMM ビジネスツアーに参加できたことで、何度も行っておられる方々に、NAMM の様子や、現地での過ごし方等、色々アドバイスを頂けたので、不安なく移動する事が出来ました。初めて NAMM に行く者にとっては大変安心できる企画でした。参加させて頂き、ありがとうございました。



近くのトイザラス視察の写真
子供向けアコースティックギターが、\$29.99 で売られている。

行い、仕様のリリース候補版 (Release Candidate) の発行に至るスケジューリングを行った。この規格は MIDI1.0 をトーンリングする仕組みを持っている。従って MIDI 規格との互換性についても動向を注視する必要があり、上記討議に昨年に引き続きオブザーバーとして参加した。

〈NAMM2013における記念イベント〉

今回の NAMM では MIDI 30 周年を記念した MMA によるブース展示とパネルディスカッションが行われた。

展示ブースでは、30 年を経てなお互換性を保つ MIDI の魅力をアピールするように、Commodore 64 コンピューター上の MIDI シーケンサーで iPad のシンセアプリを駆動するデモをはじめ、MIDI 関連各社の協力の元、最新の MIDI 楽器・機器が多数展示された。

また、Dave Smith, George Duke, Tom Oberheim, Alan Parsons 等の各氏をパネラーに迎えてのパネルディスカッションはほぼ満員の盛況で、単なるテクノロジーを超えた楽器作り、音楽作りのスピリットにまで及ぶトークや多くの質疑応答が行われた。

(詳細は MMA Web ページ参照)

<http://www.midi.org/aboutus/news/2013namm.php>

また NAMM 最終日には、30th Anniversary MIDI を記念して AMEI/MMA 夕食会を企画、MMA ブースの片付けを終え駆けつけた Tom White 会長と MMA エグゼクティブメンバー・AMEI MIDI 規格委員会メンバーを含めた 12 名でテーブルにつくと、出てきたメニューに HAPPY 30TH ANNIVERSARY MIDI!!! と印刷されていて、スタッフの心遣いに感謝。全員でメニューにサインし、AMEI・MMA で 1 部ずつ記念に持ち帰りました。



Old MIDI Meets New MIDI



NAMM MMA 30 周年ブース



Dave Smith/George Duke/Tom Oberheim/Alan Parsons
Jordan Rudess & Craig Anderton talk about MIDI
Past, Present and Future... パネルディスカッション



30th Anniversary MIDI : AMEI/MMA 夕食会

AMEI NAMM ツアーに参加して (3)

ヤマハ株式会社 研究開発センター 永井 教崇

この度 NAMM Show に参加するにあたり、英語は通じるだろうか、無事会場まで行けるだろうか、といった心配がありましたが、AMEI のツアーに参加したので、移動やホテルのチェックイン・チェックアウトの場面では担当の方の案内でスムーズに進めることができました。

空港からホテルまでは貸切バスで移動でした。途中で食事をとったり、「水を買えるところによって欲しい。」といった要望にも柔軟に応じていただき、何ら迷うことなく観光気分で行くことができました。また、NAMM Show の初日に会場に行く際、私はツアーの他の方々より早く行く必要があったのですが、特別に会場までご案内いただき助かりました。

会場は 3 階立てとても広く、いたるところでアーティストや展示者によるデモンストレーションが行われていました。来訪者も皆積極的に試奏していましたので、随分賑やかで活気がありました。正に楽しむ場だったと思います。

色々なメーカーがいるので、展示物は様々でした。iPhone, iPad といった最近の商品に接続して用いるもの、伝統的なもの、定番なもの、定番なものに一工夫手を加えたもの、古い楽器をもとに現代的にアレンジしたもの、まったく過去に見たことのないような新規なもの。特にドラムに関してはチャレンジングで、表側と裏側で分割して両者の間隔を変えることができるようにしたりす

るなど、ちょっと商品化するのが難しそうなのが多く見られました。また、ハーディ・ガーディの構造を模倣してアレンジしたものや、物干し竿のような長い棒を叩いて電氣的な音を出すもの、カーボン素材を用いた金管楽器もチャレンジングで印象的でした。

私は今回ギターを中心に回ってまいりました。ギターにはあまり縁がなかったのですが、大きなメーカーから小さなところまで一同に会って展示していますので、各メーカーの名前と規模、価格帯と生産拠点、商品の特徴と品質、といった市場に関わる概要を数日で一度に知ることができました。今はインターネットで検索すれば、こうした情報はある程度のレベルまですぐに入手できると思いますが、一度に沢山のメーカーについて実際に商品を手にして動向を確認したり、ユーザーの反応を目にしたりすることができるのは、こうしたイベントにおいて他にはないと感じました。

最後に、私は研究部門に所属しているので、事業部門と比べると商品やユーザーから疎遠になりがちで、市場やユーザーが商品を使用している様子を忘れかねないのですが、NAMM

Show の場で改めてそうしたものに触れることが有意義だったと思います。ツアーを担当していただいた方には改めて御礼申し上げます。



MIDI 検定試験実施結果報告

主催：一般社団法人音楽電子事業協会
 協力：一般社団法人日本シンセサイザープログラマー協会

平成 24 年度 MIDI 検定試験は、1 級、2 級、3 級対応の新しい公式ガイドブックである「ミュージック クリエイターハンドブック」が導入されて初めての年ということもあり、試験内容や実施方式についても大きな変更がありました。

まず実施時期ですが、例年 1 月に行われていた 1 級試験を普段仕事で忙しい方々にも配慮して 8 月のお盆の時期に移動しました。半年前に前回の 1 級試験が実施されたばかりにもかかわらず、前回とほぼ同数の方に受験いただき、ある一定の成果はだせたと考えております。

次に試験内容についてですが、ガイドブックの改訂に伴い 2 級、3 級筆記試験の学習範囲を改訂しました。それぞれの学習内容も、より現代の音楽制作に沿った内容に進化しており、習得した知識を実践的に活用する機会も多くなると期待しています。

さらに 2 級実技試験に関しては、試験方式そのものを変更いたしました。

今まで、試験会場に音楽制作ソフトウェアがインストールされたコンピューターを用意し、その場で MIDI データを作成するという方式で行われていましたが、本年度から試験会場でデータ制作に関する講義を行い、さらに課題曲スコアや制作規定に関する理解度を試す筆記試験を実施後、課題曲を自宅など各自の環境で制作して提出する方式に変更しました。

制作部分は、ほぼ 1 級試験と同様の形式ですので、1 級へのステップアップという意味においても大変有効な試験方法に切り替える事ができたのでは無いかと考えております。



また同時に、指導内容の変更に伴う検定指導者へのセミナーも行っており、この一年ですべての面において新しい MIDI 検定システムの実施に取り組みました。

次年度は、新しい MIDI 検定の学習内容をしっかりと告知し、受験者数の拡大に努力していきたいと考えております。

また、MIDI 検定ホームページにおきまして MIDI30 周年記念特別セミナー「DAW マエストロ MIDI 検定 1 級」の動画を掲載、多くの方に閲覧いただきました。

<http://www.midilicense.com/>

全国協力校・協力団体 試験会場

MIDI 検定 3 級及び 2 級 1 次試験の実施につきましては、下記の学校、団体に会場提供等のご協力を頂きました。

【北海道・東北エリア】

ヤマハミュージック北海道研修センター・札幌琴似工業高等学校・学校法人 日本コンピュータ学園東北電子専門学校

【関東エリア】

代官山音楽院・日本工学院専門学校・学校法人岩崎学園 横浜デジタルアーツ専門学校・国立音楽院・学校法人杉山学園 専門学校横浜ミュージックスクール・ヤマハエレクトーンシティ渋谷・トート音楽院 渋谷・アーツカレッジヨコハマ・日本工学院八王子専門学校・日本電子専門学校・音楽学校 メーカー・ハウス・専門学校東京ビジュアルアーツ

【中部・近畿エリア】

学校法人大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ専門学校・JEUZIA 京都音楽院・コンピューターミュージッククラブ Dee・トート音楽院梅田・甲陽音楽学院・専門学校静岡電子情報カレッジ・専門学校 名古屋ビジュアルアーツ・名古屋文理大学・金沢科学技術専門学校・リュウケイミュージックネット

【中国・四国・九州エリア】

広島工業大学専門学校・広島コンピュータ専門学校・専門学校九州ビジュアルアーツ・学校法人原田学園 鹿児島キャリアデザイン専門学校・Oita Sound Creator 協会

MIDI 検定試験結果の推移（国内）

級	実施日	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	累計
		第 9 回	第 10 回	第 11 回	第 12 回	第 13 回	第 14 回	第 15 回	
3 級	実施日	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	
	受験者数	1275	1051	930	797	760	575	590	22880
	(内学校)	659	526	512	439	385	256	312	11365
	合格者数	731	729	627	504	465	370	339	15759
	合格率	57.33%	69.36%	67.42%	63.24%	61.18%	64.35%	57.46%	68.88%
2 級 1 次	実施日	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	
	受験者数	308	247	265	172	150	161	134	5291
	合格者数	187	162	187	87	79	109	84	2592
	合格率	60.71%	65.59%	70.57%	50.58%	52.67%	67.70%	62.69%	48.99%
2 級 2 次	実施日	2007	2008	2009	2010	2011	2011	2012	
	受験者数	211	216	"2/14'15 2/21'22 2/28'31"	"2/20'21 2/27'28"	"2/19'20 2/26'27"	"2/18'19 2/25'26"	2/16'17	
	受験者数	202	173	165	99	76	88	74	3127
	合格者数	74	135	109	77	48	57	41	1124
	合格率	36.63%	78.03%	66.06%	77.78%	63.16%	64.77%	55.41%	35.94%
1 級	実施日				第 1 回 2010	第 2 回 2011	第 3 回 2012	第 4 回 2012	
	受験者数				153	76	46	45	320
	合格者数				43	17	19	11	90
	合格率				28.10%	22.37%	41.30%	24.44%	28.13%
国内受験者合計		1785	1471	1360	1221	1062	870	843	31618

中国 MIDI 検定 3 級試験の推移

級	内 容	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	累計
3 級	実施日	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	
	受験者数	144	128	119	103	177	242	80	1357
	合格者数	129	123	94	89	103	229	70	1147
	合格率	89.58%	96.09%	78.99%	86.41%	58.19%	94.63%	87.50%	84.52%
	試験会場	北京 天津 瀋陽 杭州 温州 成都 青島 (全国 8 会場)	北京 瀋陽 杭州 無錫 成都 (全国 5 会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 無錫 成都 青島 (全国 7 会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 無錫 成都 青島 (全国 7 会場)	北京 上海 南京 杭州 広西 (全国 5 会場)	北京 上海 南京 杭州 瀋陽 青島 (全国 6 会場)	上海 南京 (全国 2 会場)	

著作権・ソフト委員会関連活動2012年度サマリー (平成24年度の活動を振り返って)

著作権・ソフト委員会 委員長 戸叶 司武郎

平成25年3月までの一年間も著作権・ソフト委員会の各支部が例年通り積極的に活動を展開してまいりましたので各支部で主催したセミナーを、また音楽配信部会についてはNMRCを通じての成果をご報告致します。

〈セミナー・講演・勉強会関連〉

2012年5月にはブックライブ社をお招きして電子書籍業界動向についての講演会を、9月にはDRM(コピープロテクション)を施さない音楽データの拡張メタデータについての説明会と、横浜国立大学の川瀬教授をお招きし著作権等管理事業法の検討会を、11月には文化庁の壹貫田課長補佐による、改正著作権法(2013年1月から全部施行)セミナーを、12月にはクリプトンフューチャーメディアの伊藤氏が早稲田大学理工学部とAMEIの連携講座にて学生に講義を、2013年2月にはリアルライツ社の秀間氏をお招きして版面権についてのレクチャーを、3月にはナクス社の長野氏をお招きしてハイレゾリューション音楽コンテンツ市場の現状をご説明戴きました。また2月に開催されたCCDシンポジウムには副主査団体として支援を致しました。著作権業界に関わる多種多様な情報収集と検討を今年度も引き続きすすめてまいります。



文化庁長官官房著作権課課長補佐
壹貫田剛史様

〈音楽配信部会(NMRCを通じての活動含む)〉

昨年度は新たなサービスモデルや海外を中心とした新規参入事業者の登場など音楽配信事業者を取り巻く環境に大きな変化がありました。次の点が主な要因です。

- ① フィーチャーフォンからスマートフォンへの移行
- ② ユーザーの複数端末所有傾向
- ③ 通信環境の変化〜クラウドサービス等の登場
- ④ 著作権法の改正による違法DLの罰則化
- ⑤ Non DRM音源の流通一般化

この流れは今年度も継続したものと捉える事ができます。そうした中、NMRC(音楽配信部会はNMRC構成メンバーとして活動)は、JASRAC及びイーライセンスと規程改定の協議を重ねてまいりました。

以下に、その経過を紹介いたします。

1. 株式会社イーライセンス(以下ELIと略称で表記します)との協議

2012年6月にELIより、「インタラクティブ配信規程」の改定を行いたいので協議をしたい旨の申し入れがあり、協議が始まりました。

規程改定案は、新たなサービス領域が対象ではなく、現状の枠組みの中で料率を著しく上げたいと受け取られるものでした。著作権等管理事業法における指定管理事業者(音楽著作権分野ではJASRAC)以外の他管理事業者の規程の届出については、利用者団体代表との合意義務がなく、意見聴取の努力義務にとどまるとされています。



改正著作権法(2013年1月から全部施行)セミナー

しかしながらNMRCとしては、法の趣旨としての努力義務は新規参入の促進を目指したものであり、管理事業者として設立後10年以上に亘り事業を継続しているELI等は指定管理事業者に次ぐ準指定管理事業者的な運用ルールが必要と捉え、その旨文化庁へも働きかけを行って参りました。又、ELIとの協議の場には、「あくまでも合意した内容」を届け出る事を強く要望してまいりました。その結果、双方が歩み寄り合意に至り、合意書の締結を致しました。

これは、利用者団体代表と管理事業者との関係性において非常に大きな前進と捉えられます。併せて、兼ねてより問題視していました最低使用料についても「DLの月額最低使用料」は撤廃する事となりました。

2. JASRACとの協議

JASRACとの規程改定協議は、2011年の秋に開始しましたが、海外事業者を含むNDA問題及び違法音源を含むサービスモデル等の問題のあり方について2012年3月の協議にてNMRC/JASRACの認識が共有されました。

これを受け、2012年6月にJASRACより規程改定案が提示されましたが、その内容はサービスのユーザー利便性レベルが上がる部分についてDLを基準として料率を上げる案と捉えられるものでした。

NMRCは、DL(ダウンロード)とST(ストリーミング)の境目がなくなりつつある中、ユーザビリティが上がったからの理由で、ユーザーからより多くの料金負担を求める事ができない中、実質的なコスト負担を配信事業者に求める案を容認する事はできません。むしろ、STを基本とした案の検討を要望したいとの意見を出し、協議は硬直状態に陥りました。

現在は、両者の音楽配信を取り巻く環境変化に関する認識(DL/STの境目がなくなりつつある)は一致しているので、規程改定に関する認識を一致させ、協議を再開する為の予備折衝を重ねている状況です。

今年度は、非常に重要な時期になりますので「適切な権利処理」と「適正な著作権使用料」の設定に向けた活動を継続して参ります。

各支部の活動内容と成果は上記以外にもたくさんありますが、紙面の都合上割愛させていただきます。

今年度も会員各位の積極的なご参加をお待ちしております。

東日本大震災、並びに福島第一原子力発電所事故により
被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。
被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2013年5月15日現在

あ

- Apple Japan 合同会社

い

- 株式会社インターネット
- インフォコム株式会社

え

- 株式会社エクシング
- 株式会社エムティーアイ

お

- 株式会社音響総合研究所

か

- カシオ計算機株式会社
- 株式会社河合楽器製作所

く

- クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
- クリムゾンテクノロジー株式会社

こ

- 株式会社コルグ

さ

- 株式会社サイバード
- 株式会社サミーネットワークス

し

- 株式会社シーミュージック
- JVC ネットワークス株式会社
- 島村楽器株式会社
- 学校法人尚美学園
- 株式会社シンクパワー

す

- 株式会社ズーム
- 株式会社鈴木楽器製作所
- 株式会社スリック

せ

- セイコーインスツル株式会社
- 株式会社セガ

た

- 株式会社第一興商
- 株式会社タムラ製作所

て

- ティアック株式会社
- 株式会社ディーアンドエムホールディングス

と

- 東映ビデオ株式会社
- 株式会社トダウンゴモバイル
- (有) 東京堀田制作集団

な

- ナクソス・ジャパン株式会社

に

- 学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・
日本工学院八王子専門学校
- 一般社団法人
日本シンセサイザープログラマー協会

は

- バイオニア株式会社

ふ

- 株式会社フェイス
- 株式会社フェイス・ワンダワークス
- 株式会社フュートレック

へ

- ベストタックス株式会社

み

- ミュージックノート株式会社

や

- ヤマハ株式会社
- 一般財団法人ヤマハ音楽振興会
- 株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

- 株式会社ラグナヒルス

り

- 株式会社リットーミュージック
- 株式会社リムショット

ろ

- ローランド株式会社
- 〈正会員会社 46社〉

* 賛助会員

- 中音公司 (中華人民共和国)
- 株式会社博秀工芸
- 株式会社ミュージックトレード社
- 〈賛助会員会社 3社〉



AMEI/MIDI検定Webサイトにて
一般社団法人日本シンセサイザープログラマー協会・
一般社団法人日本作曲家協会のご協力により
**「30th Anniversary MIDI」
「DAWマエストロMIDI検定1級」**
の動画を掲載、「30th Anniversary MIDI」動画に付きましては
1000名以上の「DAWマエストロMIDI検定1級」に付きましては
300名以上の方に閲覧いただきました。

一般社団法人音楽電子事業協会

第2回通常総会と懇親会開催のお知らせ

通常総会

日時:平成25年5月14日(火)午後4時~
場所:ホテルメトロポリタン エドモント3階「千鳥」

懇親会

日時:平成25年5月14日(火)午後6時~
場所:ホテルメトロポリタン エドモント3階「春琴」

多くの会員の皆様のご参加を
お待ちしております

- ◇平成24年度事業報告
収支決算報告
- ◇役員交代の件
- ◇平成25年度事業計画(案)
収支予算(案)

AMEI NEWS Vol.50 / 2013.5.15

一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行:一般社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-16-9 イトービル 4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人:岩崎修三

編集人:石黒士郎(広報委員会)

編集協力:株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス:<http://www.amei.or.jp/>